

神岡レーザー伸縮計で観測されたスマトラ沖地震に伴う歪変化

Strain seismogram from the 2004 off Sumatra Earthquake recorded with the Kamioka 100m laser strainmeter

森井 互[1]; 新谷 昌人[2]; 竹本 修三[3]; 赤松 純平[4]; 大橋 正健[5]; 川崎 一郎[6]; 高森 昭光[7]; 百瀬 秀夫[8]

Wataru Morii[1]; Akito Araya[2]; Shuzo Takemoto[3]; Junpei Akamatsu[4]; Masatake Ohashi[5]; Ichiro Kawasaki[6]; Akiteru Takamori[7]; Hideo Momose[8]

[1] 京大・防災研・地震予知; [2] 東大・地震研; [3] 京大・理・地球惑星; [4] 京大・防災研; [5] 東大・宇宙線研; [6] 京大・防災研・予知セ; [7] 東大・地震研; [8] 京大院・理・地物

[1] RCEP, DPRI, Kyoto-Univ.; [2] ERI, Univ. Tokyo; [3] Earth and Planetary Sci., Kyoto Univ; [4] Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.; [5] ICRR, Tokyo univ.; [6] RCEP, DPRI; [7] Earthq. Res. Inst., Univ. Tokyo; [8] Dep.Geophysics,Kyoto Univ

2004年12月26日のスマトラ沖地震の際に、神岡観測所に設置された100mレーザー歪計で記録された歪記録について、報告する。あいにくデータは地震源到達後、約8時間で中断しているが、いくつかの興味ある事象が確認された。

- 1) 350秒を超えるP波が明瞭に確認された。
- 2) 初動から6時間の解析区間で、450秒程度までのモードが確認された。
- 3) 東方約200kmに在る松代観測所の歪計と波形が良く一致している。
- 4) 日本の他の観測点では、 10^{-10} の桁のストレインステップが見られたことから、神岡に於いても同程度のステップが十分に期待できる。